

途上国に住む盲目の子供たちを支援する



認定NPO法人

ヒカリカナタ基金



ヒカリ届けます 遥かカナタまで

新たな活動国、ラオスでの取り組み





★新しい活動国 ラオス・ルアンパバーンへ★

認定 NPO 法人 ヒカリカナタ基金 理事 中川美登里

2025年11月14日(土)~18日(火) ヒカリカナタ基金：谷口、竹内直人(カンボジアから合流)、伊達、中川

一般参加者：前田洋一、堀江龍一、桜間博史、福島隆行



11月14日(金)

関空からハノイ経由でラオス・ルアンパバーンへ

ルアンパバーンは多分初めて耳にされた方も多しとおもいます。ラオスの北部に位置し1995年にユネスコ世界遺産に登録されたラオスを代表する美しい古都です。80以上の仏教寺院とフランス植民地時代の洗練された建築物が共存する独特の街並みが魅力の街です。実際、街並みが綺麗で、昼間はゆっくりとした時間が流れ、夜になるとナイトマーケットに屋台が並び深夜まで活気が溢れてました。また早朝には僧侶による托鉢が行われ、私たちも喜捨をして穏やかな気持ちになりました。



11月15日(土)

ラオ・フレンズ小児病院(#1)へ

まず、代表の赤尾さん(#2)より病院全体を回り説明を受け、いよいよ初めてラオスの子供たちに会いました。この子供たちはヒカリカナタ基金の援助で、9月にイスラエルの眼科医師団によって斜視の手術を受けた25人の内の13人です。手術



からは2ヶ月経過しているので、元気で明るかったです。次に本人と両親からインタビューをし、多くの子供は、手術前の学校で斜視による外見からのいじめを多く受けていたそうですが、

術後にはそれも無くなり学校が楽しくなったそうです。これからも分かるように、子供たちの性格や将来にも影響を与える斜視、特に子供の場合放置すると弱視になるリスクが高いそうです。また読書が嫌になったり文章を読むのが苦手になったりするようで、これからもこの活動の重要性を益々感じて来ました。最後にヒカリカナタ基金活動レンタルアートの為に絵を描いて貰い、全員で集合写真を撮って終了しました。

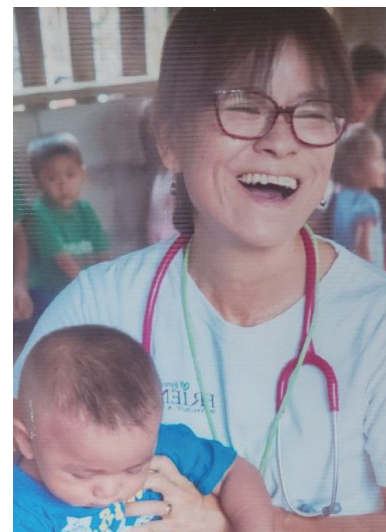


今回活動の詳細やお金の両替まで赤尾さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。
次回の予定は2026年2月に15人程度の手術を予定しています。



★#1 ラオ・フレンズ小児病院(LFHC)
2015年にルアンパバーンに開設された小児専門病院で、新生児から15歳までを24時間体制で無償の医療を提供し、現地スタッフの育成も目指しています。開院以来患者数は10万人を突破しました。寄付やクラウドファンディングで支えられていて、愛子様も訪問され支援が呼びかけられています。

★#2 赤尾和美さん
NPO法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPANの代表で看護師でもあり、四半世紀にわたりアジアの子供たちへ質の高い医療と訪問看護、看護教育も提供されています。また、カンボジアでヒカリカナタ基金が支援しているアンコール小児病院も赤尾さんが立ち上げメンバーの一人で、ここでの活動を経てラオ・フレンズ小児病院の運営を牽引しています。愛子様のご訪問時には、施設の説明や患者さんとの交流をサポートをされました。
2026年8月23日(日)開催の「ヒカリをカナタに届ける日」講演会の講師をお願いしています。



ラオス、ルアンパバーン ラオ・フレンズ小児病院視察

株式会社 大町 えがお団 団長補佐 桜間博史

ラオスは、少数民族の国で、言語も多種多様なので、子ども達の症状を確認する事が、医師の課題の1つ。9月に目の手術をした子ども達が集まってくれ、スケッチブックとクレヨンをプレゼントすると大喜びし、すぐ

に絵を描き始める。絵を描ける喜びを知っていると感じた。だがしのプレゼントも喜ばれる。だがしは本当に人を笑顔にする魔法と感じる。子ども達は、学校に行けるのが楽しいという意見が多く、父兄からは、日本に対す

る感謝の念が強いと感じた。日本からの善意がヒカリカナタ基金を通じて、このような形で活用されていることが理解できただけでも、私個人の無駄遣いを善意に替え、世のため人のために活用していきたいと感じる視察でした。

株式会社 オーディエル 代表取締役 堀江龍一

今回初めて海外での支援活動に私も参加させていただきました。今回は目の手術には直接立ち合うことはできませんでしたが、術後目が見えるようになった子供たちとその母親の皆さんにお会いすることができました。これまでは支援活動の報告だけ聞かせていただいていたのですが、実際に目が見えるようになり、

楽しそうにはしゃぐ子供たちやそれを嬉しそうに見ている親御さんたちに会うことで、この活動の意義の大きさを改めて感じる事ができました。そしてその活動に対して深い感謝の言葉もいただき、人や社会に貢献することの喜びも感じる事ができて本当に嬉しかったです。ヒカリカナタ基金のスタッフの皆様には厚く

感謝申し上げます。ラオスの子供たちの健康状態等の現状をお聴きし、献身的に関わる赤尾さんの使命感溢れる活動に心から敬意を表したいと思いました。ラオスについては何も知らなかったですが、世界遺産の街で楽しい3日間を過ごすことができ、来年も可能ならまた同行したいと思っています。



カンボジア訪問報告

認定 NPO 法人 ヒカリカナタ基金 副理事長 谷口 真吾

2025年11月12日、ミャンマーでの活動を終え、カンボジアの首都プノンペンに入りました。翌13日は、私たちの活動を長年支えてくださっているジャパンハートが新設した「アジア小児医療センター」を訪問しました。吉岡秀人最高顧問にもお会いし、新空港近くに完成した素晴らしい設備と医療体制に深く感銘を受けました。その後シェムリアップへ移動し、今回で2度目となる「アンコール小児病院」

を訪れました。1999年に日本人写真家によって設立されたこの病院は、一日約300~400人の子供たちを診察しています。カンボジアでは現在も人口の35%が貧困状態にあり、34人に1人の子供が5歳の誕生日を迎えられずに亡くなっています。清潔な水や栄養の不足が原因で苦しむ子供たちにとって、この病院はまさに命の砦です。日本の皆さんからの温かいご支援とご募金によって、「アンコール小児

病院」で昨年一年間で132人の子供たちの目にヒカリを届けることができました。これからも、一人でも多くの子供たちがヒカリを取り戻し、笑顔で未来を歩めるよう、継続的な支援に尽力してまいります。



ミャンマーのズェミンティッ君

認定 NPO 法人 ヒカリカナタ基金 副理事長 竹内直人

2025年11月10日、私たちヒカリカナタ基金はミャンマーを訪問しました。今回もMJCPの岡田先生のご尽力で、ヤンゴン国立眼科病院に手術が必要な子どもたちがたくさん集まりました。さらに、以前に手術を受けた子どもたちと再会する貴重な機会にも恵まれ、術後の経過確認ができました。さて、今回私たちが手術に立ち会ったのは、ズェミンティッ君(6歳)です。彼は生まれつきの白内障で、両目ともほとんど見えない状態でした。手術の翌日、診察室で両目の包帯を外したズェミンティッ君。こわくて、なかなか目を開けることができません。それでも、

お医者さんとお母さんにうながされ、勇気を出してゆっくりとまぶたを上げました。はじめてひらけた、クリアな光の世界。彼はとまどった様子で、しきりにまばたきをしたり、目線をきよろきよろと動かしたりしています。そんな中、谷口副理事長が示した1本指の手の形を、彼が上手に真似して見せてくれました。その瞬間、診察室には手術成功の安堵感が広がりました。そして彼は、少し恥ずかしそうに「お母さんの顔が見えるよ……」と教えてくれました。ずっとズェミンティッ君を抱きしめ、付き添っていたお母さん。親と、その腕の中にいる子の目が合

い、自然とふたりの顔に笑顔がこぼれた、すばらしい瞬間でした。





ネパールでの支援活動再開

認定 NPO 法人ヒカリカナタ基金 副理事長 竹内直人

2025年4月14日、私たちヒカリカナタ基金はネパールを訪問しました。ネパールでの支援活動は、コロナ禍を挟んで6年ぶりの再開となります。今回の活動を共にするパートナー組織は、手術件数において世界第2位の眼科ケアNGO「ネパール・ネトラ・ジョティ・サン」です。彼らの協力のもと、私たちはネパール南部にある二つの病院、「バトブル眼科病院」と「ルンビニ眼科研究所」を訪問し、たくさん子どもたちと出会うことができました。そんな子どもたちの中から、3名をご紹介します。



サントーシ君(11歳)は、外傷性白内障のため、右目の手術を受けました。お祭りの日に右目に花火が当たり、見えなくなってしまったそうです。手術で無事に視力を取り戻したサントーシ君は、「大きくなったらお医者さんになりたい。そして、ほかの目の見えない子どもたちを助きたい!」と将来の夢を語ってくれました。



アブドゥルサマド君(7歳)は、両目とも生まれつきの白内障で、手術を終えて包帯を外したばかりでした。なんと彼は、はるばるインドから国境を越えてやって来たそうです。お父さんは出稼ぎで家におらず、今回はお兄さんと二人での慣れない長旅でした。私たちがクレヨンとスケッチブックをプレゼントすると、嬉しそうにクレヨンを握りしめ、カラフルな線や模様をたくさん描いてくれました。



アユシマちゃん(16歳)は、生まれつきの斜視があり、手術前は

鏡を見るたびに暗い気持ちになっていたそうです。手術が無事に成功したことで、本人はもちろんのこと、お父さんが涙を浮かべて喜んでいた姿がとても印象的でした。お父さんは、アユシマちゃんの目のことがずっと気がかりだったものの、経済的な理由から手術を受けさせることができなかったそうです。アユシマちゃんは、大きくなったら学校の先生になり、ボランティア活動にも取り組みたいと話してくれました。



手術を終えた子どもたちは皆、口をそろえて「今度は自分が、誰かを助きたい!」と言ってくれます。皆さまのご支援が、子どもたちを通して友愛の連鎖となり、さらにその先へと広がっていく—そのことを実感する瞬間です。さて、今回は久しぶりのネパール訪問でしたが、この国には、皆さまの支援を待ちわびている子どもたちが、今も大勢いることをあらためて実感しました。今後も継続して、たくさんのヒカリを届けてまいります。どうか引き続き、温かい応援をよろしくお願いいたします。



ヒカリをカナタへ 感謝とともに歩むこれから

認定 NPO 法人 ヒカリカナタ基金 理事長 竹内昌彦



皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

2026年となり、私たちのヒカリカナタ基金（以下「基金」と略します）も、皆さんのおかげで支えてくださる方が増え、活動の範囲も広がってきました。

昨年2025年は、基金が活動を開始して10年という節目の年でした。「1000人の子ども目に光を届ける」という初期の目標を達成し、今日現在で1371人の子どもたちを支援することができ、着実な歩みを続けています。

そして2025年12月1日には、東京・帝国ホテルにて社会貢献支援財団より表彰を受け、会長の安倍昭恵さんから表彰状と100万円を頂戴しました。安倍さんからは名刺もいただきましたが、そこにはとても美しい点字が刻まれていました。

もう一つ、表彰についてお知らせします。

基金が国内で取り組んでいる点字

ブロックの啓発活動が評価され、「岡山発！子どもたちが広げる点字ブロックからの優しい未来」というテーマの活動に対して、おかやま協働のまちづくり賞「奨励賞」が贈られました。これは、市立操山中学校の生徒



さんたちが学区内の点字ブロックを点検し、不備のある場所を写真に撮って市長に報告したことをきっかけに、点字ブロックの改善が進んだという取り組みです。もちろん、基金もこの活動をリードし、支えてきました。

今年1月には、6年前から岡山市に要望していた表町商店街への点字ブロック敷設が、ようやく認められました。全長約1000メートルのうち、まず150メートルに新たに黄色い点字ブロックが敷設されました。

そして基金では、そこに「コード化点字ブロック」という識別マークを取り付けることにしました。専用アプリ「Walk & Mobile - コード化点字ブロック認識アプリ」を入れたスマートフォンをこの識別マークにかざすと、音声で現在地や周辺の道路、建物の情報を知らせてくれます。

商店街への点字ブロック敷設は全国的にも難しいケースが多く、岡山での取り組みは注目されています。まだ一部ではありますが、敷設にこぎつけてくださった地域の皆さんや、勇気ある決断と理解を示してくださった岡山市に、心から感謝しています。



これまでに1371人の子供達の目が見えるようになりました。

国名	キルギス	ネパール	モンゴル	ミャンマー	カンボジア	ベトナム	タジキスタン	ラオス	合計
人数	172人	40人	5人	36人	987人	105人	1人	25人	1371人

2026年3月現在

途上国の子どもたちへの支援も広がっています。

ネパールやカンボジアの新しい病院への支援に加え、昨年11月には、ミャンマー、カンボジアに続き、初めてラオスの病院を訪問し、目の手術費をお渡ししてきました。

ラオスの病院には赤尾さんという看護師さんがおられ、基金の活動を深く理解してくださり、きちんとした契約を交わすことができました。私たちが訪問したその病院には、5日後に天皇家の

愛子さまがご訪問されました。

基金を支えてくださる方々の輪も、確実に広がっています。

私の講演を聴いて支援して下さる方もおられ、どのようにお礼を申し上げればよいのか分からないほどです。昨年11月8日には山形市での講演が実現し、ついに全国47都道府県すべてで講演を行うことができました。実に35年の歳月がかかりました。コロナ禍により講演の回数は激減しましたが、命の続く限り、障害者理解を訴えるとともに、

基金へのご支援をお願いしてまいります。皆さんの地域でも、講演の機会をいただけましたら幸いです。どうぞ遠慮なくお声がけください。

「5000人の子どもの目に光を届ける」という新たな目標に向かい、基金をさらにたくましいものに育てていかなければなりません。

精一杯がんばってまいりますので、今後とも一層のご支援をよろしくお願いいたします。

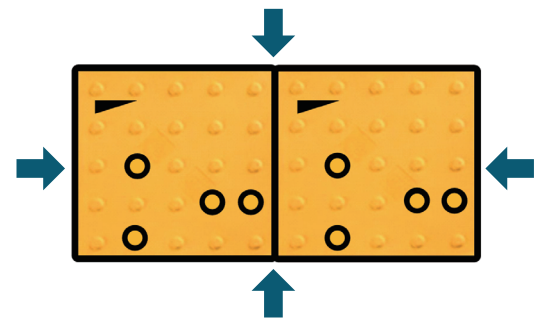
コード化点字ブロックの特徴

4方向それぞれにメッセージの登録が可能

読み取る方向に応じて、4方向それぞれに異なる音声メッセージを登録できます。そのため、読み取る人がどの方角から来ても、今向いている方角に対応した適切な案内を提供することができます。

誰でもカンタンに利用可能

スマートフォンを持っていれば誰でも使用可能です。利用者は無料の専用アプリをダウンロードすればすぐにサービスの利用を始めることができます。ぜひ、インターネットで「コード化点字ブロックの場所」と検索して、最寄りの設置場所で実際に体験してみてください。



アプリのダウンロードはこちらから

iOS
(App Store)



Android
(Google Store)



2025年度活動報告

- 2025年 4月10日 ●認定NPO法人ヒカリカナタ基金 第9回通常総会
- 2025年 4月13日 ●小児眼科医療プロジェクト 1000人達成報告会
- 2025年 4月14日～ 4月22日 ●ネパールで活動
- 2025年 8月24日 ●「ヒカリをカナタに届ける日」記念講演会・活動報告会
- 2025年11月10日～11月18日 ●ミャンマー、カンボジア、ラオスで活動
- 2025年11月26日 ●おかやま協働のまちづくり賞「奨励賞」岡山市
- 2025年12月 1日 ●社会貢献者表彰 公益財団法人社会貢献支援財団
- 2026年 2月中予定 ●表町商店街(中之町)の点字ブロック敷設に伴うコード化点字ブロック設置
- 2026年 3月15日 ●「点字ブロックの日」制定記念啓発活動、記念式典

2024年度活動計算書

2024/4 /1～2025/3/31

会計報告

経常収益

正会員受取会費	150,000
受取寄付金他収入	28,144,533
合計	28,294,533

事業管理費

人件費	0
その他経費	2,216,134
事業費総合計	16,302,248

事業費

ミャンマー事業費	2,492,430
カンボジア事業費	10,185,353
モンゴル事業費	250,000
ネパール事業費	798,350
日本国内事業費	359,981
事業費合計	14,086,114

運営管理費

人件費	0
その他経費	1,585,866
当期経常増減額	10,406,419
当期正味財産増減額	10,406,419
前期繰越正味財産額	35,772,052
次期繰越正味財産額	46,178,471

賛助会員募集中!

皆様からの寄付金が集まって、子供達の目の手術代となります。皆様のあたたかい思いやりをひとつに結集して、できるだけ大きな支援を目の不自由な子供達に送り届けましょう! 下記の年会費を納入していただいた時点で賛助会員となりますが、翌年以降の継続、退会は自由です。

後日、メールか郵送で活動報告の広報誌等をお届けします。

※また年会費以外に、通常の寄付も随時受け付けておりますので、同じく下記窓口からよろしくお願ひします。

年会費
個人の方 (1口) **3,000 円/1年間**
法人の方 (1口) **5,000 円/1年間**

※法人様はできれば2口以上からお願いします。

毎月の寄付も可能です
金額はいくらからでも構いません

認定 NPO 法人ヒカリカナタ基金への寄付は税制上の優遇措置が受けられます。

下記のいずれかの窓口でお振込みください。

銀行 金融機関

ゆうちょ銀行
お振込みのご案内

■ ゆうちょ銀行もしくは郵便局からの場合
ゆうちょ銀行
振替口座
口座記号番号: 00270-1-99664
口座名義: 認定特定非営利活動法人ヒカリカナタ基金
フリガナ: トクヒ) ヒカリカナタキキ

■ ゆうちょ以外の銀行、金融機関からの場合
銀行名: ゆうちょ銀行 (金融機関コード9900)
店名: ○二九店 (ゼロニキュウ) 029
預金種目: 当座預金
口座番号: 0099664
口座名義: 認定特定非営利活動法人ヒカリカナタ基金
フリガナ: トクヒ) ヒカリカナタキキ

インターネット

■ 「ヒカリカナタ基金」ホームページから。



www.hikarikanata.com



認定NPO法人
ヒカリカナタ基金

◎事務局

〒700-0925 岡山県岡山市北区大元上町12-11

Tel: 086-242-3535 / Fax: 086-242-3311

E-Mail: npo@hikarikanata.com

www.hikarikanata.com

ヒカリカナタ基金



■ポスターの掲示場所、募金箱設置場所を募集しています。

■点字の広報誌もあります、ご希望の方は事務局にご一報ください。